

# 和服の袖口の四つ留めについて

寺田 恭子・神田 和子

(昭和62年9月28日受理)

## Regarding Four-Point-Knot Stitch at Sodeguchi of Kimono

Kyoko TERADA and Kazuko KANDA

(Received September 28, 1987)

### 緒 言

前報で筆者らは、初心者でも比較的容易に製作できる指針を示す目的で、和服の袖口合わせについて標付け、縫い方を理論的に解明し、実際に初心者を用いて製作し、検討して報告した。

今回は袖口の四つ留めと、前報で示された袖口止まりの形状に与える影響の大きいと考えられる縫い残し部分C(図1)<sup>1)</sup>について、理論的に解明し、初心者でも容易に製作できる指針が得られたので報告する。

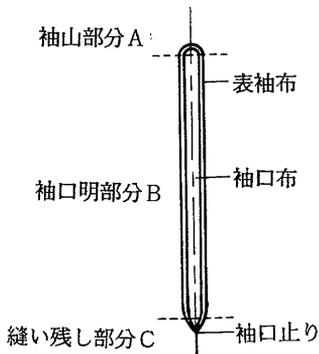


図1 袖口の分解図

### 縫い残し寸法と袖口の四つ留めの位置

前報で袖口止まりを縫い残した方が縫い残さない方法に比べ、袖口止まりまで袖口ふきをきれいにし出すことができるという結果が得られた。その理由として、

1. 四つ留めの位置が同じであっても、縫い残し部分Cの布に融通をもたせることができる。
2. 表袖布がつかげんになり、袖口布がややいせこまれる。

まれる。が考えられた。今回はこの縫い残し寸法と四つ留めの位置が、袖口止まりの形状にどう影響しているか、実際に製作して検討した。

縫い残し寸法と四つ留めの位置を10冊の指導書<sup>2)</sup>から調べると、縫い残し寸法は0.5cmから0.6cm、四つ留めの位置は表袖布のきせ山と袖口布のふき寸法の2倍の位置を留める方法(方法1)、表袖布のきせ山と袖口布のふき寸法の1倍の位置を留める方法(方法2)の2方法であった。縫い残し寸法と四つ留めの位置の関係を図2・図3に示す。表袖布と袖口布の縫い残し寸法は同寸である。これを四つ留めすると、方法1では $\overline{OC}$ と $\overline{OC'}$ 、方法2では $\overline{OC}$ と $\overline{OC''}$ の長さの違う2点をそれぞれ留めることになる。従って、表袖口がつかげんになり、寸法の長い袖口布がややいせこまれて丸みを出すことができると考えられる。そこで袖口止まりの形状に影響すると思われる袖口布のいせこみ率を算出する。

### 1. いせこみ率の算出方法

袖口合わせに一定のきせをかけ、ふき寸法を整えながら簾をかけると、図3のA点とA'点が合うことになる。

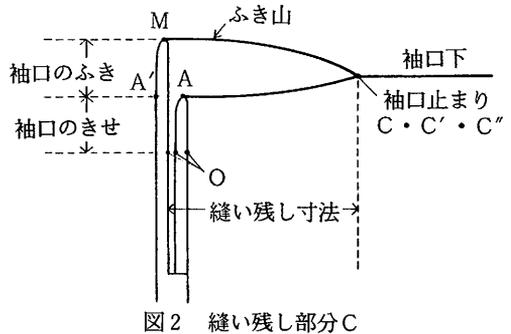


図2 縫い残し部分C

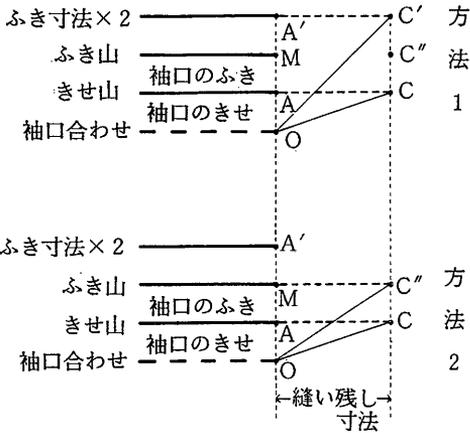


図3 袖口の四つ留めの位置

袖口の四つ留めをすると、縫い止まり点OからCまでの長さに $\overline{OC'}$ および $\overline{OC''}$ が一致するまでにいせこまれて、袖口止まりの形状ができあがる。

図4において、袖口合わせの縫い止まり点Oを直角座標の原点とし、OよりY軸上に袖口合わせのきせ寸法Aをとり、A点からX軸に平行に袖口の縫い残し寸法Cを定め、表袖布の四つ留めの位置とする。次に点Aおよび点Cから袖口ふき寸法の2倍を図のようにとり、A'点・C'点とすれば、A'点は袖口ふきができたときA点と合う点である。C'点は方法1における袖口布の四つ留めの位置である。また点AおよびCから袖口ふき寸法を図のようにとり、M点・C''点とする。点MはY軸上における袖口のふき山点であり、点C''は方法2における袖口布の四つ留めの位置である。これらからいせこみ率を算出するには、図4に示す各座標点より $\overline{OC}$ ・ $\overline{OC'}$ および $\overline{OC''}$ を三平方の定理により次式から求めることができる。

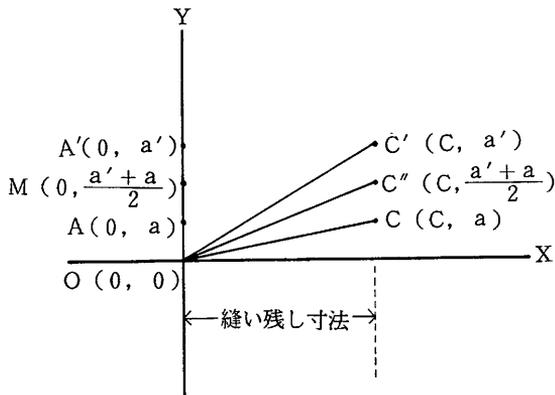


図4 いせこみ率の算出方法

$$\overline{OC} = \sqrt{c^2 + a^2}$$

$$\overline{OC'} = \sqrt{c^2 + a'^2}$$

$$\overline{OC''} = \sqrt{c^2 + \left(\frac{a'+a}{2}\right)^2}$$

よって方法1のいせこみ率、方法2のいせこみ率は、次式から求めることができる。

$$S_1(\%) = \frac{\overline{OC'} - \overline{OC}}{\overline{OC'}} \times 100 \cdots \cdots \text{方法1のいせこみ率}$$

$$S_2(\%) = \frac{\overline{OC''} - \overline{OC}}{\overline{OC''}} \times 100 \cdots \cdots \text{方法2のいせこみ率}$$

## 2. 袖口の四つ留めの方法

袖口の四つ留めの方法を選定するために10冊の指導書<sup>2-11)</sup>を調べた。その中から予備実験により、初心者でも簡単に理解でき、また袖口下の縫いやすい方法を選択した。

四つ留めの方法は図5に示す通りである。袖を出来上がった時の形にして内袖を手前に持ち次の順序で留める。

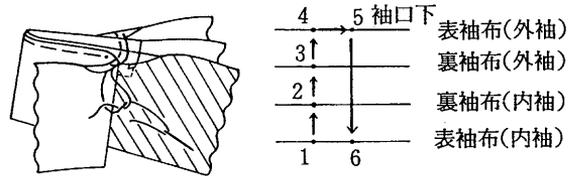


図5 袖口の四つ留めの方法

1. 表内袖の裏側からきせ山に針を出す。
2. 裏内袖のふき山を浅くすくう。
3. 裏外袖のふき山を浅くすくう。
- 4・5. 表外袖のきせ山を袖口下の方へ縦にすくう。
6. 表内袖のきせ山に表から針を入れる。
7. 1～6の順に針を進め、表内袖の裏で糸を結ぶ。

四つ留めをしたら、袖口下は袖口布のある間を次の順序で別縫いにする。

1. 表袖を四つ留めの位置からきせ分浅く、内袖、外袖とも縫い代を開いたまま、裏袖の袖口布と同じ長さまで半返し縫いをする。表外袖の縫い代を留めの位置から自然に斜めに折る。
2. 裏袖は四つ留めの位置からまっすぐに内袖・外袖とも縫い代を開いたまま袖口布まで半返し縫いをして、縫い代を割る。
3. 袖口布のある間は表裏の縫い目を合わせて、縫い目のきわをとじる。
4. 裏外袖の縫い代を袖口布の下から自然に斜めに折

り、四つ縫いをする。

実物製作方法

袖口止まりの形状に影響の大きいと考えられる縫い残し部分Cの袖口布のいせこみ率を算出した。この理論的結果の確認を得るために実物製作を行う。試料布には前報と同様、地直しを行った綿織物を用いた。表袖布は正花（花色もめん）、裏袖布、袖口布は新モスを選んだ。

表1 布の諸元

布名	項目	材質	組織	厚さ (mm)	密度 (本/cm)	
					経	緯
正花 (花色もめん)		綿	平織	0.15	35	33
新モス (裏袖布)		綿	平織	0.24	29	28
新モス (袖口布)		綿	平織	0.24	30	25

試料布の諸元は表1に示す通りである。今回は袖口のきせ寸法を0.2cm・0.3cm。ふき寸法を0.1cm・0.2cmと一般的な寸法を用いた。また縫い残し寸法は、ふき寸法が0.1cmの場合はふき寸法の2倍から5倍までの4段階。ふき寸法が0.2cmの場合はふき寸法の2倍から5倍までの6段階と予備実験により定め、四つ留めの位置とともに、表2に示した。表2の寸法によって、前報で示した方法によって袖口合わせをし、2の袖口の四つ留めの方法で示した方法1、方法2によって四つ留めをし、袖口下を縫って、実物製作を行った。

結果考察

実物製作方法で表2に示した通り40種類製作した。またこれらのいせこみ率は、方法1のいせこみ率、方法2のいせこみ率から求めると表3の通りである。

四つ留めの位置から比較してみると、図6のNo.1とNo.21、図7のNo.5とNo.25、図8のNo.9とNo.29、図9のNo.15

表2 袖口の四つ留めの実物製作寸法

ふき寸法 (K)	0.1 cm								0.2 cm											
	0.2 cm				0.3 cm				0.2 cm				0.3 cm							
縫い残し寸法 (cm)	K×2	K×3	K×4	K×5	K×2	K×3	K×4	K×5	K×2	K×2.5	K×3	K×3.5	K×4	K×5	K×2	K×2.5	K×3	K×3.5	K×4	K×5
方法1 資料No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
方法2 資料No.	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40

表3 実物製作のいせこみ率

方法	資料No.	いせこみ率(%)																			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
方法1	資料No.	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
	いせこみ率(%)	36.75	27.89	20.09	15.90	33.05	27.24	21.19	17.54	37.98	31.05	25.46	21.04	17.54	12.55	37.98	32.22	27.24	23.07	19.62	14.47
方法2	資料No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
	いせこみ率(%)	21.55	15.02	10.56	7.65	19.38	15.15	11.61	8.94	20.94	15.90	12.29	9.70	7.80	5.31	21.91	17.54	14.11	11.47	9.43	6.62

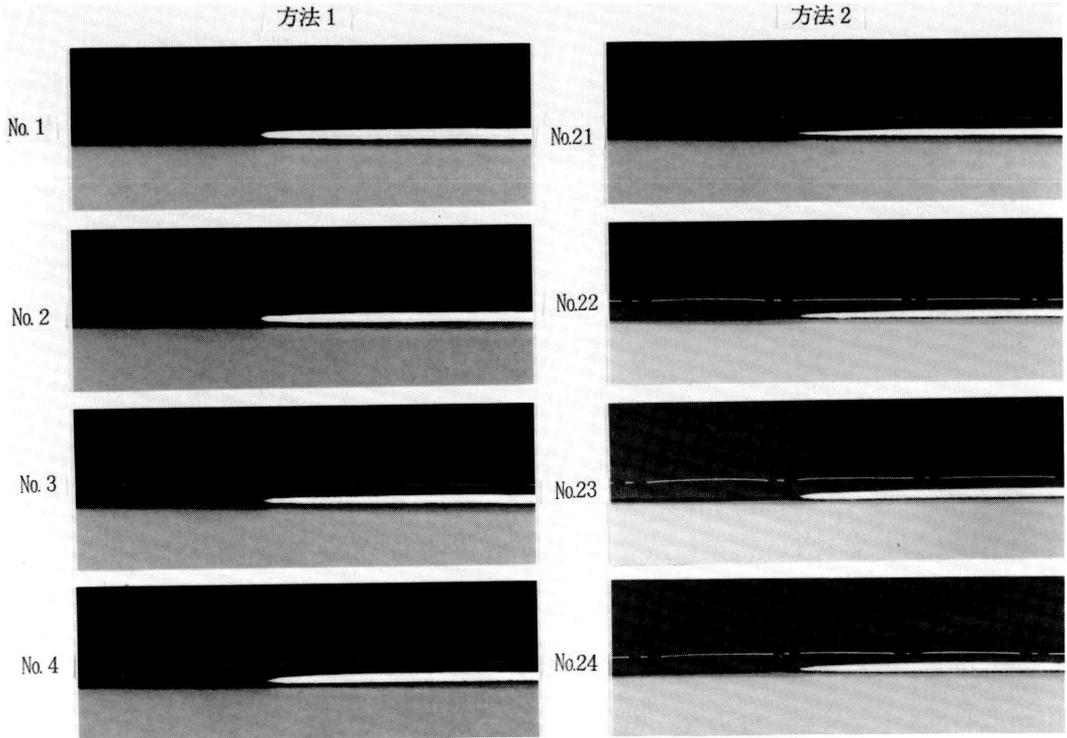


図6 袖口ふき0.1cm・袖口きせ0.2cmの実物製作

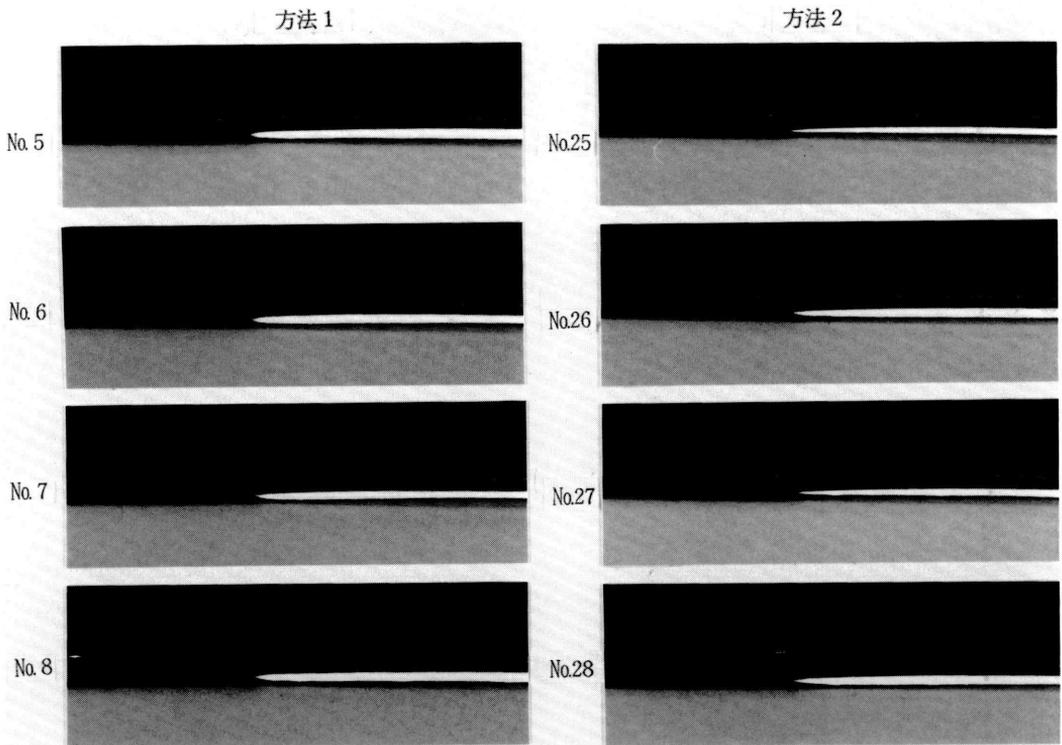


図7 袖口ふき0.1cm・袖口きせ0.3cmの実物製作

和服の袖口の四つ留めについて

とNo.35にみられるように、方法1のふき寸法の2倍の位置を留めた。No.1, No.5, No.9, No.15の方が、方法2のふき寸法の1倍の位置を留めた。No.21, No.25, No.29, No.35より袖口止まりまでふき山線がきれいに出了。これらのいせこみ率は表3の通り、No.1が36.75%、No.5が33.05%、No.9が37.98%、No.15が37.98%、No.21が21.55%、No.25が19.38%、No.29が20.94%、No.35が21.91%と、同じきせ寸法、ふき寸法、縫い残し寸法であっても方法1の方が方法2よりも大きい。

四つ留めをした状態を比較してみると、方法1は表から見て、前袖のきせ山が後袖にしっかりかぶさるが、方法2では同様に留めても、糸がみえやすくしまりがわるい。これは袖口布の幅がふき寸法だけ、ゆるんでいるためと考えられる。

縫い残し寸法から比較してみると、図6の方法1のNo.1からNo.4にみられるように、縫い残し寸法が少ないほど、袖口止まりのふき山線に丸みをおびた形ができていく。図7の方法1のNo.5からNo.8においても同様の傾向

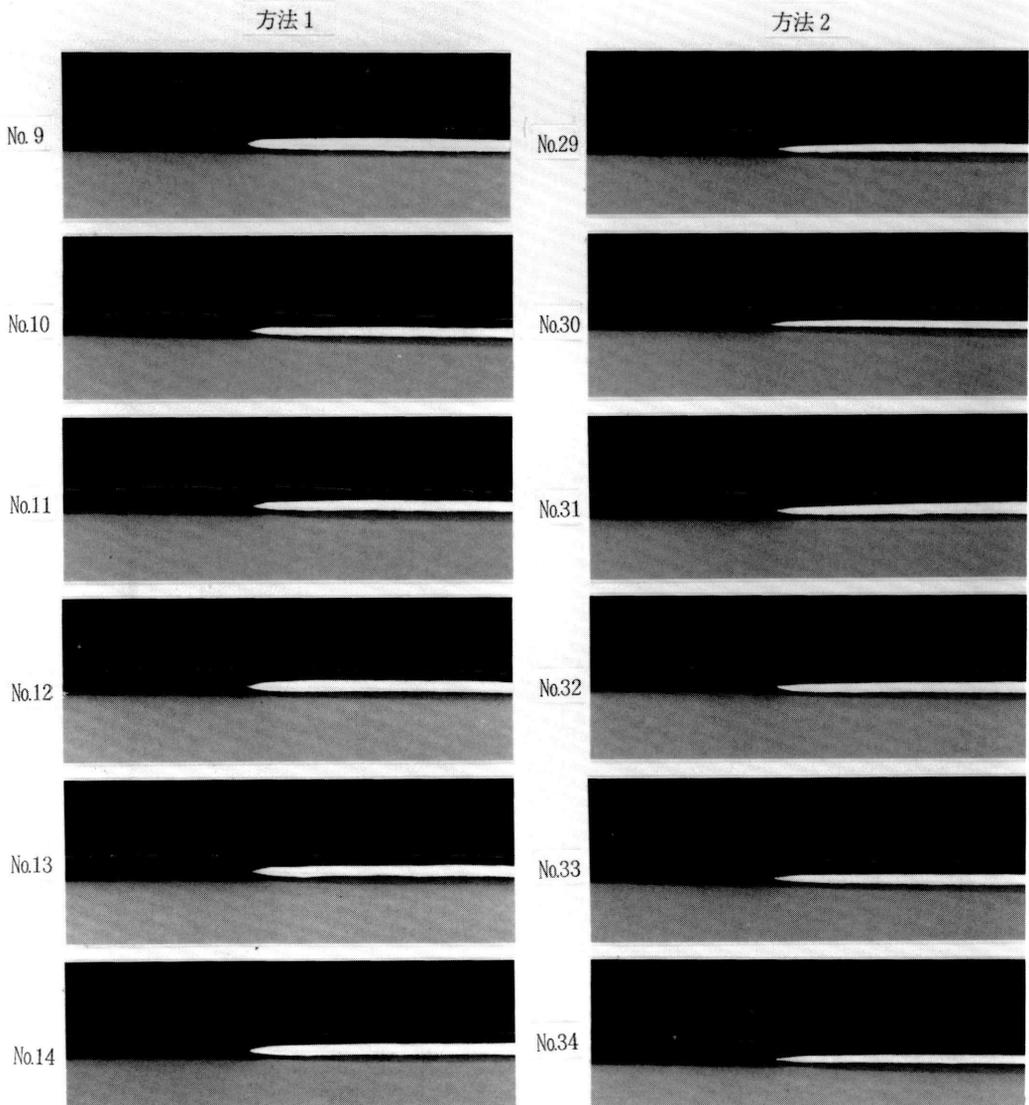


図8 袖口ふき0.2cm・袖口きせ0.2cmの実物製作

がみられる。また図8の方法1のNo.9からNo.14, 図9のNo.15からNo.20においても同様の傾向がみられる。図8のNo.14と図9のNo.20の縫い残し寸法が1cmの場合は、ふき山線が細くなりすぎる。縫い残し寸法が少ないほどいせこみ率が大きくなり、袖口止まりのふき山線に丸みをおびた形ができる。

方法2においては、図6, 図7, 図8, 図9のいずれの場合も袖口止まりが細長く、中に入りこんだ形で、はっきりした傾向がみられない。

きせ寸法のちがう、図6と図7の方法1を比較すると、図6のNo.1とNo.2, 図7のNo.7とNo.8が袖口止まりのふき山線に丸みをおびている。また図8のNo.10からNo.14と図9のNo.16からNo.20を比較すると、きせ寸法が0.3cmの図9のNo.16からNo.20の方が袖口止まりのふき山線に丸みをおびている。またいせこみ率も大である。図8のNo.9と図9のNo.15はいせこみ率が同じで、袖口止まりの形状も同じ様である。

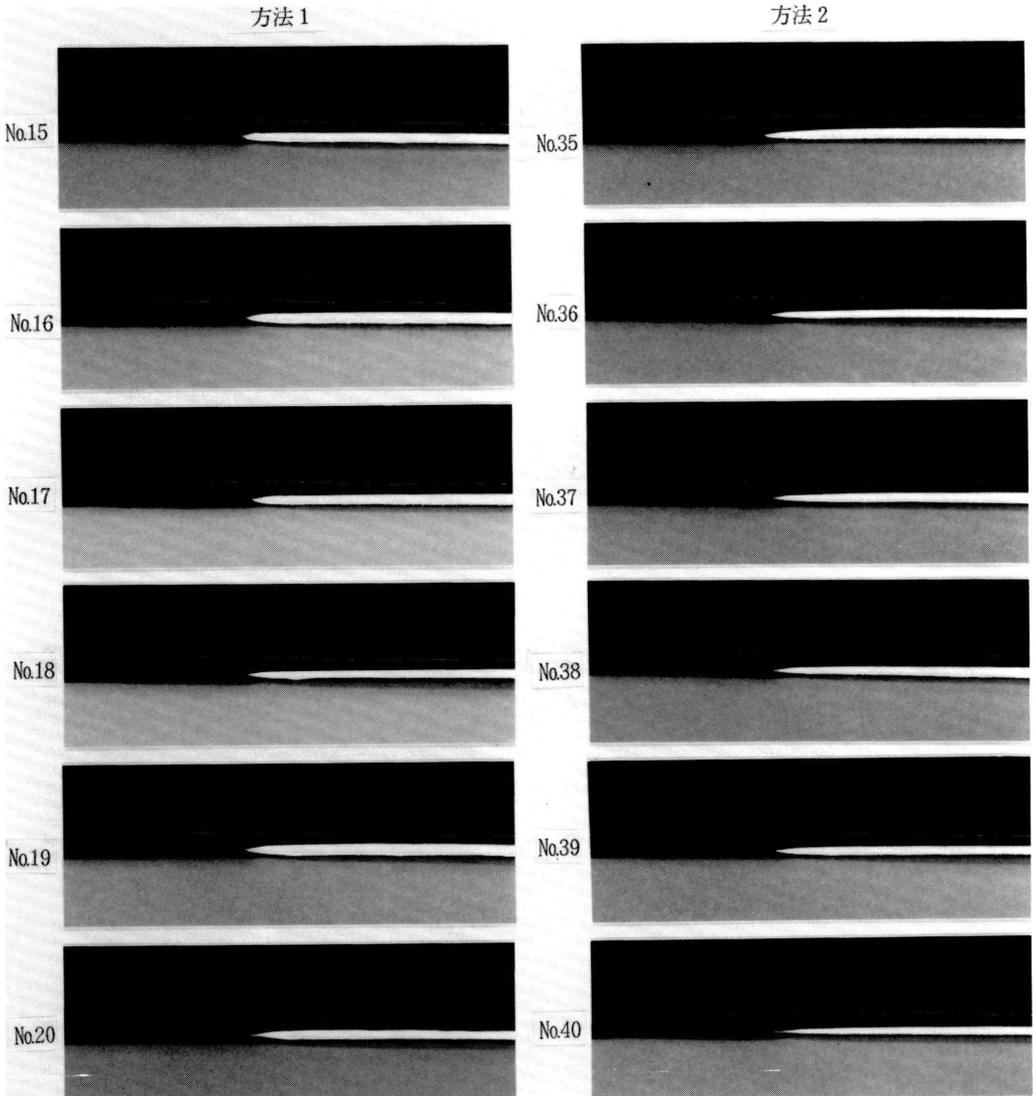


図9 袖口ふき0.2cm・袖口きせ0.3cmの実物製作

## 要 約

初心者でも比較的容易に製作できる指針を示す目的で、今回は袖口止まりの四つ留めと、袖口止まりの形状に与える影響が大きいと考えられる縫い残し部分Cについて理論的に解明した。さらに実際に製作して検討し、次のような結果が得られた。

1. 四つ留めの位置から比較すると、方法1のふき寸法の2倍の位置を留める方が、方法2のふき寸法の1倍の位置を留める場合より、四つ留めの糸のしまりもよく、袖口止まりのふき山線がきれいに出る。またいせこみ率は方法1の方が大である。
2. 縫い残し寸法から比較すると、寸法が少ないほど袖口止まりのふき山線に丸みをおびた形状ができる。いせこみ率は寸法が少ないほど大である。また縫い残し寸法が1cmでは袖口止まりのふき山線が細すぎる。ふき寸法が0.2cmで、きせ寸法が0.2cmと0.3cmの場合の縫い残し寸法は0.8cmが限度である。
3. きせ寸法から比較すると、ふき寸法が0.1cmの場合は結果にばらつきがみられた。ふき寸法が0.2cmの場合は、きせ寸法が0.2cmより0.3cmの方が袖口止まりのふき山線に丸みをおびた形状ができる。またいせこみ率も大である。
4. 四つ留めの位置、縫い残し寸法、きせ寸法、ふき寸法いずれの比較の場合も、袖口止まりのふき山線の形状といせこみ率は密接な関係にあり、いせこみ率の大きい方が丸みをおびた形状になる。

以上の結果から、袖口止まりの形状は、四つ留めの位置、縫い残し寸法、きせ寸法、ふき寸法から、製作者の好みの形状を得ることができる。

## 参 考 文 献

- 1) 寺田恭子・神田和子：東京家政大学研究紀要，27，279（1987）
- 2) 奈良女子高等師範学校裁縫研究会：最新裁縫要義上巻，東洋図書（東京），1966，p. 26
- 3) 奈良女子高師・裁縫研究会：裁縫精義，第2篇，袷及縮入篇，東洋図書（東京），p. 47
- 4) 岩松マス：和服裁縫，後編，雄鷄社（東京），1970，p. 73
- 5) 共立女子大学・山本らく他：和服裁縫全書，大日本図書（東京），1966，p. 78
- 6) 上田美枝：新和裁全書，マコー社（東京），1969，p. 70
- 7) 藤田とら：和服裁縫，光文社（東京），1969，p. 56
- 8) 土井幸代：和裁，同文書院（東京），1969，p. 131
- 9) 久保房子他：和服の理論と実際，京都書院（京都），1979，p. 129
- 10) 松井和哥：和裁図鑑，暁教育図書（東京），1974，p. 63
- 11) 東京家政大学・被服平面構成研究会：被服平面構成，衣生活研究会（東京），1986，p. 64